

令和2年度のゴール 令和3年度のスタート

笑顔無限大

わたしの笑顔が あなたを笑顔にする
あなたの笑顔が だれかを笑顔にする
だれかの笑顔が みんなを笑顔にする

先生方の笑顔が子どもたちに
広がります。マスクをしていても
笑顔の気持ちは伝わりますよ。



今年度は、多くの学校園で教育活動の見直しが図られました。そのような状況の中でも、先生方からは、子どもたちの笑顔のために教育活動を工夫し、子ども同士の「支援」の関係を育みながら、支持的風土の醸成に取り組んでいただきました。

令和3年度も学校園では、「傾聴・受容」に加え、「支援」の関係を育むための活動を意図的に取り組んでいただきたいと思います。

支援とは、



「支援」するとは、「期待」するとも言えます。

すぐに手を差し伸べて助けることだけが「支援」ではありません。
友達の可能性を信じて「待つ」「見守る」「委ねる」こともあります。
相手の立場になって考えて行動することが大切です。

「支援」の関係が育っている教室では、子どもが安心して「わからない」「なぜ」「できない」「困っている」「心配」と言えます。

そういった声が聞こえる学級は、さらに「支援」の関係を強めます。

そういった言葉や間違いは、学級の成長に欠かせないものです。

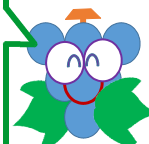
私たち教師は、学級の温かい雰囲気づくりのための「傾聴・受容」「支援」に関わる子どもの実際の発言や態度を見逃さずに捉え、正しく認め、大いにほめて、子ども自身がそのよさを実感し、価値を自覚できるようにします。

令和2年度を振り返ってみましょう！

Q1 学級での活動が 教師主体になっていませんか？

Q2 体験や学びが その場限りになっていませんか？

Q3 学級のルールが 教師の決めたものだけになっていませんか？



令和3年度も、子どもを信じて、笑顔でちょっと待って、笑顔でしっかり見守って、時には、教師の適切な「支援」の下で、子どもに学級での活動を委ねてみましょう。そして、子どもが活動をやり遂げたときには、その努力をみんなでたたえ合いましょう。教師の笑顔と「支援」の姿は、子どもたちにどんどん広がっていくはずですよ。